

参 考 様 式

令和4年度みどりの食料システム戦略緊急対策交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

産地戦略

事業実施主体名：びわ再生協議会

都道府県名：千葉県

対象品目：

びわ

策定年月：令和5年2月

目標年次：

令和9年

※事業実施計画における目標年度の翌年度から5年目とする。

環境負荷軽減の取組

○	化学農薬の使用量低減		化学肥料の使用量低減		有機農業の取組面積拡大		温室効果ガスの削減 (水田からのメタンの発生抑制)
	温室効果ガスの削減 (バイオ炭の利用)		温室効果ガスの削減 (石油由来資材からの転換)		温室効果ガスの削減 (プラスチック被覆肥料対策)		温室効果ガスの削減 (CO ₂ 、N ₂ Oの排出削減)

※ 複数の栽培体系を検討した場合は、栽培体系ごとに産地戦略を策定すること。

第1 事業実施地域の現状と目指すべき姿

1 事業実施地域

千葉県南房総市、館山市、鋸南町（安房地区）

※事業実施計画書第1の4の事業実施地域を記載。

2 事業実施地域の現状

千葉県のびわ産地は急傾斜地での露地栽培が中心である。産地では化学肥料、化学農薬の使用回数を制限するちばエコ栽培に取り組むなど環境負荷低減の取組が行われているが、急斜面での薬剤散布は、人への暴露、びわ樹以外への飛散等が問題となっている。また、薬剤散布は動力噴霧機による防除が主であり労力負担が大きいため、規模拡大を妨げる原因の1つとなっている。

※1の事業実施地域の現状について、実施しようとしている環境負荷軽減の取組の実施状況等、課題と認識している点について具体的に記載。

3 事業実施地域の目指すべき姿

収穫期予測情報に基づく適期防除及び散布用ドローンの活用により、薬剤投下量の低減が可能になる。また、ドローンの委託散布により、慣行の地上散布に比べて作業時間を削減できるため、規模拡大や担い手確保等の動きが活発になり、産地が維持できる。

※事業実施地域内へのグリーンな栽培体系の普及により、2に記載した課題がどう改善され、どのような姿になるのかを具体的に記載。

第2 グリーンな栽培体系の普及に向けた取組

1 今後普及すべきグリーンな栽培体系

ア 取り入れる技術

	取り入れる技術	期待される効果
環境にやさしい栽培技術	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫期予測情報に基づく適期防除 ・散布用ドローンの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫期予測情報に基づく適期防除により、カメムシ被害対策の必要散布回数を2回から1回まで減らすことができる。 ・散布用ドローンの活用により、隣接する圃（散布場所から6m程度想定）へのドリフトの割合を約1/5まで減らすことができる。また、人への暴露の危険が減る。
省力化技術	<ul style="list-style-type: none"> ・散布用ドローンの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託散布の導入により、70%以上の散布時間削減につながる。

※環境にやさしい栽培技術欄には、表紙で選択した環境負荷軽減の取組に対応する技術を記載。

※省力化技術欄について、環境にやさしい栽培技術欄に記載した技術と同一技術の場合は再掲する。

※期待される効果は、検証結果、計画書に添付したバックデータ等を踏まえて、可能な範囲で定量的に記載する。

※行は適宜追加してください。

イ 現在の栽培体系

項目	作業時期												備考
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
作業段階	袋かけ		収穫			せん定		摘房・摘蕾				袋かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・露地栽培の場合 ・防除対象はカメムシ類
技術	防除(2回)		礼肥			基肥	防風林刈り込み等			追肥			
	動力噴霧機による防除												

※事業実施地域における現在の一般的な営農体系を記載。

※作業時期は作物の栽培期間等に応じて調整可能。



ウ グリーンな栽培体系

項目	作業時期												備考
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
作業段階	袋かけ		収穫			せん定		摘房・摘蕾				袋かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・露地栽培の場合 ・防除対象はカメムシ類
技術		防除(1回)	礼肥			基肥	防風林刈り込み等			追肥			
		収穫期予測による防除適期の推定											
		ドローンによる防除(作業委託)											

※アで記載した「環境にやさしい栽培技術」及び「省力化技術」が、栽培体系のどの工程に取り入れられるのか明確に記載。

2 新たな栽培体系の普及に向けた目標

ア 環境負荷軽減の目標

年度		R 4 (現状値)	R 9 (目標値)	増減率 (%)	備考
1	化学農薬使用量(回数)の削減 (テルスターフロアブル等※)	2回	1回	▲50%	現状値：千葉県作成の令和4年版農作物病害虫雑草防除指針 ※カメムシ類に登録のある剤
	単位 回				
2	散布用ドローンの活用面積	2ha(検証面積)	10ha	400%	現状値：委託散布業者の実施報告書
	単位 ha				

※指標欄については、表紙で選択した環境負荷軽減の取組に応じて指標を設定する(化学農薬の散布回数、成分数、化学肥料の使用量、窒素成分量等)。

また、設定した指標の単位が分かるように記載。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は $\frac{\text{目標値}}{\text{現状値}} - 1 = \text{増減率}$ で算出。

※化学農薬の使用量低減の取組については、化学農薬の使用量の低減割合の目標を設定する。ただし、導入する技術により、使用量の低減の確認が困難な場合は、取組面積の目標を設定する。

※化学農薬の使用量低減の取組については、どの剤の使用量を削減したか、どの剤からどの剤に切り替えたか分かるように記載。

※化学肥料の使用量低減の取組については、化学肥料の使用量低減割合の目標を設定する。

※有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減の取組については、新たに取り入れる技術の取組目標面積を設定する。面積以外の指標で目標設定ができる場合は追加で設定することも可能。

※温室効果ガスの削減の取組については、ウにおいて取組面積の目標を設定することで、環境負荷軽減の目標設定に代えることができる。複数の技術を取り入れる場合に、個別の技術について取組面積の目標を設定する場合等、グリーンな栽培体系の取組面積以外に目標設定する場合は、アにおいて目標を記載することができる。

※備考欄には、現状値等の出典(現行のJA等の栽培暦、都道府県や市町村等の指標、検証農家の作業日誌や帳簿等からの試算など)を記載。

※1つの栽培体系で複数の環境負荷軽減の取組を組み合わせる場合は、取組ごとに指標を設定し、記載欄が足りない場合は適宜追加する。

イ 省力化目標

年度		R 4 (現状値)	R 9 (目標年次)	増減率 (%)	備考
1	農薬散布時間の削減	2 時間/10a	0.5時間/10a	▲75%	現状値：果樹栽培標準技術体系（経営収支試算表）（千葉県、令和5年3月） （動力噴霧機2回→ドローン防除1回）
	単位 時間/10a				

※指標欄については、原則、取り入れる省力化技術に応じて、作業人員の削減、作業時間の削減、作業工程の削減の目標を設定する。複数設定する場合は、適宜記載欄を追加する。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は $\text{目標値}/\text{現状値}-1 = \text{増減率}$ で算出。

※アシストスーツなど、定量的な目標設定が困難場合は、指標は当該技術を取り入れる面積とし、備考欄を追加して検証を行った農業者に対するアンケート等により確認した省力化の効果を記載。

※備考欄に現状値の出典（統計値、都道府県の農業経営指標、JA等の栽培暦、検証農家の作業日誌等からの試算など）を記載。

ウ 普及を目指す面積

(単位：ha)

年度		R 4 (現状値)	R 9 (目標値)	増減率 (%)	備考
対象品目全体の作付面積		127	127	0%	現状値：会員状況調査。グリーンな栽培体系の導入により規模拡大しやすくなるが、産地は高齢化が進んでいるため、目標値は現状維持とした
うち、グリーンな栽培体系に取り組む面積		2	10	400%	現状値：委託散布業者の実施報告書
普及割合		2%	8%		

※対象品目全体の面積については、事業実施地域全体の面積（母数）を記載する。水稻（主食用米）を対象品目とする場合は、水田収益力強化ビジョン等における主食用米作付面積の傾向を踏まえて目標値を設定すること。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は $\text{目標値}/\text{現状値}-1 = \text{増減率}$ で算出。

※「うち、グリーンな栽培体系に取り組む面積」欄には、第2の1のウに記載する「グリーンな栽培体系」に取り組む面積を記載する。

※生分解性マルチへの転換等、1つの栽培体系を複数品目に適用する場合等であって、品目別に目標を設定する場合は、品目ごとに表を作成。

第3 関係者の役割分担及び取組内容

構 成 員	役割分担及び取組内容				
	令和5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (目標年次)
千葉県 (普及組織：安房農業事 務所)	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議の開催支援 ・集合研修や資料配付による技術指導 ・カメムシ類発生予測情報の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議の開催支援 ・集合研修や資料配付による技術指導 ・カメムシ類発生予測情報の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議の開催支援 ・集合研修や資料配付による技術指導 ・カメムシ類発生予測情報の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議の開催支援 ・集合研修や資料配付による技術指導 ・カメムシ類発生予測情報の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議の開催支援 ・集合研修や資料配付による技術指導 ・カメムシ類発生予測情報の作成
南房総市、館山市、 鋸南町	<ul style="list-style-type: none"> ・管内農業者への情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・管内農業者への情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・管内農業者への情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・管内農業者への情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・管内農業者への情報提供
J A安房 (生産者組織事務局)	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議及び集合研修等の生産者組織運営支援 ・カメムシ類発生情報の配付 ・導入状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議及び集合研修等の生産者組織運営支援 ・カメムシ類発生情報の配付 ・導入状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議及び集合研修等の生産者組織運営支援 ・カメムシ類発生情報の配付 ・導入状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議及び集合研修等の生産者組織運営支援 ・カメムシ類発生情報の配付 ・導入状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議及び集合研修等の生産者組織運営支援 ・カメムシ類発生情報の配付 ・導入状況調査
房州枇杷組合連合会、J A安房温室びわ組合	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議及び集合研修等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議及び集合研修等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議及び集合研修等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議及び集合研修等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議及び集合研修等の開催

※新たな営農技術体系の普及・定着に向けての役割及び取組内容を具体的に記載してください。

※記載欄は適宜追加する等調整してください。

第4 その他(任意項目等)

※販売形式、販路開拓の検討状況、出荷先、PR方法等の販売方法や、他の補助事業等を活用した機械導入等の環境整備の計画等、栽培体系の普及に向けて位置付けておく事項があれば、**適宜記載欄を設けて記載。**